

令和6年度第1回旭川市こども計画策定部会 議事概要

○開催日時

令和6年9月6日（金） 18:35～19:50

○開催場所

旭川市総合庁舎7階 大会議室B

○出席委員（9名）

荒木関委員，楠井委員，小山委員，佐々木純江委員，佐々木千夏委員，佐藤委員，
中嶋委員，長島委員，長野委員

○欠席委員（2名）

小野委員，片桐委員

○事務局（5名）

向井子育て支援部長

子育て支援課 香川課長，高橋主幹，川口主査，浅沼主査

○傍聴者（0名）

○概要

1 開会

2 協議事項

（1）部会長及び副部会長の選出について

立候補及び推薦もないことから，事務局案を提示し，部会長は佐々木千夏委員，副部会長は長野委員に決定した。

（2）（仮）旭川市こども計画の策定について

（A委員）

「（仮）旭川市こども計画の策定について」事務局から説明願う。

（事務局）

資料1及び2に基づき事務局説明。

（A委員）

このことについて，委員の皆様から質問等はあるか。

（B委員）

資料の4ページ，こども大綱の6つの基本方針の2つ目に，「こどもや若者，子育てに関わる人と対話をしながら進めます」とあるが，今回のこども大綱において，子どもの意見をどのように尊重していくのかということが一番の鍵であると思う。

子どもの意見聴取について，パブリックコメントの段階で行うのか，計画策定過程の最初の段階のどこかで行うのか，その部分について説明をいただきたい。

また、今回のこども大綱に、具体的な12の数値目標があったと思う。数値目標について、既に市が持っているデータがあれば示していただきたい。全部はないと思うが、いくつかでも今までの調査から数値は上がってくると思う。それがないと、具体的にどのように素案を作っていくのかが見えてこないのではないかなと思う。

もう一点、子ども総合相談センターへの相談件数の推移について説明があったが、おやこ応援課への相談件数が含まれていないと思う。おやこ応援課への相談の数値についても示していただきたい。

(事務局)

こども大綱における子どもや若者の御意見をいただく部分に関しては、今後将来にわたって、子どもが意見を表明できる場を作っていくということが大切であると考えている。

今回、こども計画の策定に当たっては、子どもの意見を聞く場面を何回か設定したいと考えている。まだ、具体性がなく大変申し訳ないが、子どもが集まる場などで子どもの意見をいただく、又は、子ども版の計画を作るなどして、そこで意見を求めることなどを考えていきたいと思っている。

(B委員)

部会には、保育所相互育成会や幼稚園協会、小学校長会の委員もいらっしゃるの、何かしらお力添えをいただきながら、子どもの意見を聞く場を整えられたらよいと考える。

(事務局)

2点目のこども大綱の12の数値目標については、自己肯定感であるとか、子どもが社会に対してどう思っているかという指標が多い。庁内でもアンケート調査をしているので、直接そういった設問はないかもしれないが、数値目標と近い設問について探してみる。

(B委員)

国が目指している目標値と旭川市では、何かしらのずれは必ずあると思う。それを国の目標設定値で定めてしまうと、非現実的な計画になってしまうのではないかと考える。周辺の情報を集めた上で、旭川市なりの現実的な計画を立てていくべきであると考えてるので、大変だと思うが、数値について、拾えるだけ拾っていただけるとありがたい。

(事務局)

12の数値目標のほかにも、個別の指標もたくさんある。ある程度一致できるようなところについては、比較できるようにしていきたいと思う。

おやこ応援課への相談件数については、データはあるが手元にないため、後日回答させていただきます。

今回示したものはあくまでも事例であり、実際の計画の段階ではもっと細かなデータについても、反映させるつもりである。

(C委員)

ニーズ調査については、どのような方を対象にされたのか、調査の概要について教えていただきたい。また、子ども総合相談センターでかなりの件数の相談があるが、どのような相談が多いのか。そこから見えてくる課題について、分かればお示しいただきたい。

(事務局)

ニーズ調査については、未就学のお子さんを持つ親御さんと小学生以上の就学児を持

つ親御さん、それぞれ2, 500件に対して調査を行った。それに対して、未就学1, 200, 就学児1, 100の回答があった。

(C委員)

どのような形で調査を行ったのか。

(事務局)

住民データを活用し、無作為抽出で対象となるお子さんがいらっしゃる世帯にお送りさせていただいている。任意回答という形で、ウェブと紙両方で回答できるような形で実施した。

(C委員)

児童相談所等に相談をされている家庭は、どのような調査でも回答してこないと思う。子ども総合相談センターで相談されているような家庭のニーズも反映させることが大切でないかと考えるので質問させていただいた。

(事務局)

子ども総合相談センターへの相談に係る課題について、細かい内容までは持ち合わせていないため、今後、計画に反映しながら進めさせていただければと思う。

(C委員)

福祉行政報告例等で、統計を取って全部出しているの、すぐに分かると思う。

(D委員)

就業者数の推移については、正規雇用と非正規雇用の割合についてのデータもあるのか。

(事務局)

就業者数の推移については、正確なお伝えできず申し訳ないが、基本的に正規雇用についての数値であると認識している。

(D委員)

現金給付の政策が最近目立つが、結局子どもに残らないことが問題になっていると思う。実際に、手元にお金がないのであれば、現金が必要だと思うが、取得が変わっていないのにもかかわらず、困り感だけが残っているのであれば、物品や補助金、例えば、奨学金、給食費や学費の無償化など、そういうもので対応したほうがいいということもあると考える。資料には、経済的な困り感のアンケートのデータがあるが、実際に子育て世帯では、所得が増えているのか、減っているのか、財政状況が分かるものがあれば参考になると思う。それがあれば、大人に留まらず子どもまでお金が行くような、有効性の高い政策が出せるのではないかと考える。

(事務局)

年齢層に応じた所得のデータ、推移のデータについては、改めて確認をする。

(D委員)

職場で育休や産休などの制度があっても、実質減給となるため、それが結局、貧困になっていくようなこともあると聞く。単純に就労の有無ではなく、実際の所得がどのくらいであるかが重要であると思う。

(A委員)

子育て世帯であれば、ニーズ調査でも所得を聞いているので、そこから何か分かること

があるのではないかと思う。

(D委員)

保育園などに預ける際、必ず所得証明の提出を求められると思うが、それを活用することはできないのか。みんな頑張って、いろんな書類を出しているのだから、いろいろ活用してくれたほうがいいのではないか。

(事務局)

個人情報であり、個別にそのことにしか使わないということで、提出いただいているため、そういったデータを直接使うということが難しい。

(E委員)

人口推計で少子化がどんどん進んでいる中で、いかに子育てをしやすい環境をさらに高めていくか、そこが高まれば、子どもも少しは増えやすくなるのではないかというように、そういった方向性を求めている会議体という考え方でよろしいか。

(事務局)

本市の方向性としては、どういった子育ての支援策を行っていくのか、それが少子化というところに行き着いていくのかなというところであるが、そうした中の計画をつくっていきたいと考えている。

(E委員)

旭川市に限らず、全国的に子育て支援については、支援センターを含めて、どんどん進化しており、親御さんや子どもたちにとってもすごく選択肢が増えている状況にある。

しかしながら、いくらサービスを提供しても、不満足感というのはどこかに残ってしまうところがある。例えば、3歳以上の保育料が数年前に無償化になったが、一旦無償化になってしまうと、もうその次の次の年くらいには当たり前になってしまって、何のありがたみもないような、それがもう普通になってしまうというようなことがある。

そういったところもよく調整しながら、大事に進めていかななくてはいけないと思う。

(F委員)

今年から、15歳まで子ども医療費が完全無償化となり、金銭的にはかなり楽になっているはずであるが、経済的な負担が減らないというのは、やはりお金の使い方が悪いというか、あんまり上手に生かしてない家庭が多いのではないかと思う。

「こどもまんなか社会」ということで、子どもに対するたくさんの目標があるのはいいが、やはり何か優先順位を決めるべきであると思う。

個人的には、やはり少子化対策で、子どもを増やすというのが一番の目標ではないかと思う。そのためには、就学児よりも未就学の小さいお子さんを持った家庭に対しての細かな補助が必要であると思う。

保育園も無償化になり、医療費も無償化になったが、なぜ、子どもが増えないかというと、経済的なものもあるが、時間的にも余裕がない親御さんが多いと感じる。子どもが病気をすると、会社から怒られる、病気をしても休めない、休めないときに病後児保育を使いたいけれど入れない、入ったとしてもお金がかかるから、自分が休む、休みが多かったら正職員になれるわけではなく、パートでいるしかないという話を聞く。

地域で子育てをするのであれば、病気になった子どもの家庭を助けるようなものがあれば、少なくとも時間的には少し余裕ができて、子どもを産みやすい環境になると思う。

また、例えば、企業が子どもを育てる人を正規雇用として雇った場合に、その企業に助成金を払うなど、お母さんが正規雇用で勤められるようなことが市の政策としてできればよいと思う。そういうようなサポートをする政策を子育ての政策に入れてもいいのではないかと思う。

(事務局)

めり張りをつけられるような形を考えていかなければならないと思っている。計画の中でどのように盛り込むかということは、また考えていきたい。

(G委員)

子どもを増やすということを何とかしてほしいというところがある。計画の中にも当然入ってくると思うが、旭川市は全国的に見ても出生率が低い。その原因について、何か調査をしているのかお聞きしたい。

旭川市で子どもを育てたいと思えるような計画を策定するのがよい。また、旭川市ではこういう子どもを育てたいというような目標が何かあればよいと思う。

さらに、旭川市の子どもが、保育園、幼稚園、小学校と、どこに通っていても、同じような教育が受けられる環境ができるとよい。

(A委員)

さまざま御意見等あったが、現在仮称となっている計画の名称についても、御意見を伺いたいと思うが、御意見等はあるか。

(B委員)

個人的には、シンプルで分かりやすいので、こども計画でよいと思う。

さまざまな意見はあると思うが、今回のこども大綱では、今までの「子育て支援」というところから、「子ども」というところが強くなっているように感じる。

こども大綱を読んでいただければ分かると思うが、あまり少子化というところには、触れられていない。今いる子どもたちがどう育っていくのかっていうことをまずは真剣に考えていこうというところが、今回のこども大綱の一番の軸であると思う。その趣旨からいくと、こども計画でよいのではないかと思う。

(C委員)

子ども家庭センターができたが、センターにみんなが分かるような愛称が付くであるとか、旭川の子育てや子ども支援を、こんな愛称で全体的にやっていくというようなものがあれば、このこども計画にもそれをつけたらいいのではないかと思う。計画名はこども計画でよいと思う。

(D委員)

中高生で部会をつくって、決めてもらってはどうか。そういうことに興味のある子どもを公募して意見を聞けば、子どもの声を聞く機会としてもよいのではないか。

(E委員)

こども計画は、あんまりいいネーミングではないと感じている。子ども計画という名称は堅い印象があり、かつ何を計画するのか、漠然としすぎていて分からないと思う。

(D委員)

旭川ならではのものが全くないのが、ちょっと残念である。この名称だと、どの町でも変わらないので、旭川市である必要がないと思う。

旭川だからいいよねというイメージをつけられるような目玉政策があってもいいような気がする。カラーがない感じがする。

(B委員)

多分、次に出てくる素案を見たら、旭川らしい計画が盛り込まれているのではないかと期待をしている。今日はあくまでも全体の説明であるので、ここに旭川の要素は恐らく含まれていないと思う。

(A委員)

計画の名称について、様々な意見が出たが、意見を踏まえて事務局で再度検討してもらうことでよいか。(委員了承。)

(A委員)

全体を通して、御意見等はあるか。

なければ、これで閉会とする。

3 閉会